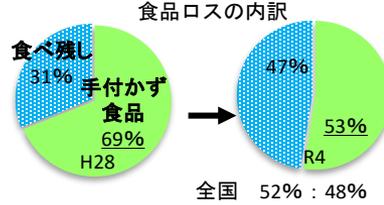


【家庭系】

1 組成調査及び排出量推計結果（H28→R4）

- 食品廃棄物：8.8万トン→5.6万トン（-3.2万トン）
- 食品ロス：2.7万トン→1.9万トン（-0.8万トン）
- 1人1日あたりの食品ロス発生量（推計値）：69g→50g（-19g）**
- 食品ロスの主な内訳：手付かず食品の割合が減少（69%→53%）

		食品廃棄物の年間発生量		1人1日当たりの食品ロスの発生量
			うち食品ロスの発生量	
富山県	H28	8.8万t	2.7万t	69g
	R4	5.6万t	1.9万t	50g
全国	R3	290.6万t	243.6万t	53g



2 アンケート結果（N=2,215世帯（回答率55.4%、対象：4000世帯））

(1) 食品ロス形態別

① 手付かず食品

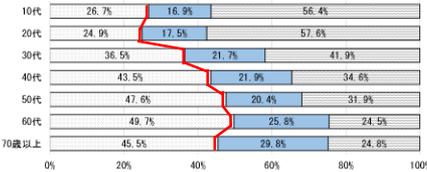
- 85%の家庭で賞味・消費期限切れ等の手付かず食品が発生
- 季節野菜は年間を通して廃棄される傾向



手付かず食品（第2回調査）

【フードドライブ】調査

- 認知度は39.5%、特に若い世代で低い傾向。
- 寄付しようと思わない主な理由は「寄付できる食品がないため」、「実施日時・場所を知らないため」



- 知っていた。
- 言葉は聞いたことがあったが、内容は知らなかった。
- 言葉も内容も知らなかった。



食べ残し（第2回調査）

② 食べ残し

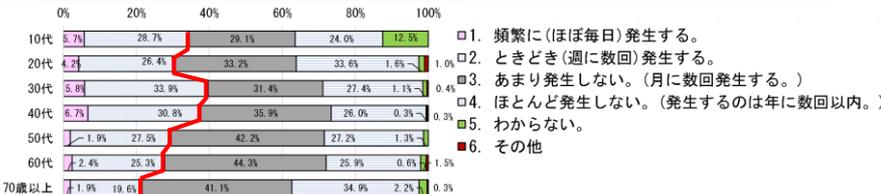
- 食品が傷みや暑い夏季（7月）は特に食べ残しが増（1.5倍）

○ 家庭ごみ100袋中の食品ロス量（組成調査実測値から換算したもの）

	4・10・1月	7月（第2回調査）
食べ残し	13.8 kg	20.9 kg
手付かず食品	16.2 kg	18.5 kg

(2) 食品ロスに対する意識

- 食品ロス削減の取組みが自分にとって意味や効果が「あると思う」は78.1%
- 一方で20～30代が食品ロス削減の取組みの意味や効果を感じられていない傾向
- 食品ロスの発生頻度は、特に30～40代で高い傾向（子を持つ親世帯の割合が多い）



【事業系】

【調査概要】N=1,013事業所（回収率25.3%、対象4,000事業所）

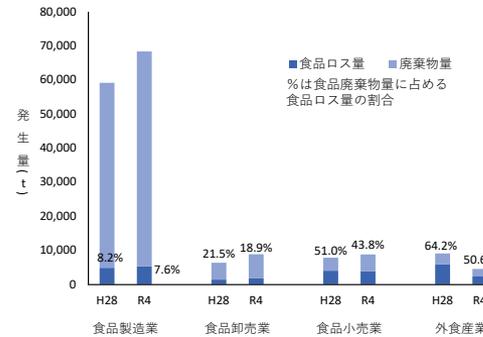
1 食品廃棄物・食品ロスの年間発生量（H28→R4）

		食品廃棄物発生量 (A)		食品ロス量 (B)		食品ロス量の割合(B/A)
富山県	H28	8.2万トン	1.6万トン			19.4%
	R4	9.0万トン	1.3万トン	-5.1		14.3%
全国	R3	1669.8万トン	279万トン			16.7%

食品廃棄物量：8.2万トン→9.0万トン（+0.8万トン）
 食品ロス量：1.6万トン→1.3万トン（-0.3万トン）
 食品ロス割合：19.4%→14.3%（-5.1ポイント）

1人1日あたり食品ロス発生量（事業系） 41g→35g（-6g）

2 業種別の食品廃棄物発生量



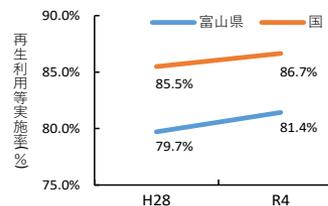
【製造業・卸売業・小売業】
前回調査より食品ロスの割合は減っているものの、より一層の推進が必要

【外食産業】
「食べきり3015」運動や「食べきりサイズメニュー導入促進事業」などの取組みの効果があつた
ただし、他業種と比べ食品ロスの割合が高い

3 種類別の食品ロス発生量・発生割合

	① 製造・調理くずのうち可食部	② 消費・賞味期限切れや鮮度が落ちたことにより、製造・調理に利用できなくなった食材	③ 試作品、検査品、サンプル	④ 製造過程での印刷ミス、流通過程での汚損・破損などによる規格外品	⑤ 定番カット食品や販売期限切れのため返戻品や自社廃棄したもの	⑥ 消費・賞味期限切れや鮮度が落ちたことにより、販売できなくなった商品	⑦ 食べ残し	⑧ その他
H28	発生量(t) 5,528	487	304	1,484	55	4,751	3,746	20
	割合 33.8%	3.0%	1.9%	9.1%	0.3%	29.0%	22.9%	0.1%
R4	発生量(t) 6,326	969	210	358	137	5,287	1,323	281
	割合 42.5%	6.5%	1.4%	2.4%	0.9%	35.5%	8.9%	1.9%

4 食品廃棄物の再生利用等実施率



本県の再生利用等実施率はH28 79.7%→R4 81.4%と前回調査より増加
しかし、全国よりは低い